

## 参考資料 2 史料意訳文 ※本文はいずれも抄出

### 1 名代官と有能な元締手附

代官都築(天保7～9年倉敷代官)は吟味役、そのほかも追々役替えがあるとの風聞です。代官方も追々役替えになり、御地(倉敷)の藤方(彦市郎)君も大坂へ役替えか御地留任で加増かどちらかでしょう。何分評判が良い(代官)です。(中略)宇佐美郷一はこの度、丹後久美浜代官・増田作右衛門の元締手附となり出立しました。今、御料所で「名元締」と呼ばれています

(嘉永2年)11月21日[大橋平右衛門あて内田清次郎書状]別4-13-34-1

### 2 有能な元締

奥州へ出立の広田清吉は指折りの人物です。篤実な人で御料(幕府領)の中でもこのような人を用いる代官は幸せです (嘉永4年)4月16日[大橋平右衛門あて内田清次郎書状]別4-7-16-2

### 3 京の画家など文化人の情報を伝える

覚

(柴田)義堇 猿図 一幅 壱両貳方

右は(大原)呑舟の所蔵で売り払いたいとのこと。高価ですがご存じの者なのでお買い上げ下されば喜ぶでしょう。(松村)景文は沢山ご所蔵でしょうか。最近景文の画が高値なことは(円山)応挙よりよほど高値で取引されています。この前三幅対が五十金でした。この人は、人物が宜しいからということで、時折良い掛物も見かけます。梁川星巖は存命しております。儒老には(貫名)海屋こと菘翁がおります。婦人の歌の上手もあります。(大田垣)蓮月は大いによろしい

(安政4年)[大橋平右衛門あて内田清次郎書状]別6-10-6-2

### 4 倉敷ゆかりの画家古市金峨・大原呑舟について語る

昨年十二月五日付の書状は二十九日に板倉侯(備中松山藩主板倉家)の家来から届き、拝見しました。山田安五郎(方谷)へ託して差上げた小堀(宗中)の掛物をご落掌の旨、承知いたしました。(中略)(小堀)宗中公への揮毫の申し込みはたくさんあるのですが、ある人が(宗中を)悪評をしたのが本人の耳に入り、書かなくなってしまいました。(中略)(古市)金峨は、出雲・因幡あたりを遊行し時々書状を(平右衛門に)差上げ作品もよく描いているとのことですが、私へは一向連絡がありません。私が御地へ行った際に仲立ちをし、少々世話もしたのに疎遠にするとは納得のいかないことです。ついでがあれば同人へ(左様に)お話しください。また(大原)呑舟からも連絡がないそうですが、文人はみな不義理で太鼓持ち同様です。(中略)また連絡を取ることがあれば私からも言ってお聞かせますが、さてさて困った人物。しかし、現在、(画家として)一・二の者です。

(嘉永4年)正月22日[大橋平右衛門あて内田清次郎書状]別4-7-16-1

## 5 江戸の小磯錠助から春画を取り寄せる

江戸も変わりありませんが、物価高で困ります。お約束の※春画は昨今のご時世で少なく、催促してやっと入手したものを差し上げます。絵屋でも内緒売りの作品なので店先にはなく、頼んで用意したものです。来春にもなれば品数も増えるでしょうが今は非常に少ないです。まずはあるだけお送りします  
慶応2年12月1日〔大橋平右衛門あて小磯錠助書状〕XIX-16-A-2-7

※春画…男女等の性行為を扱った絵。春画の呼称が一般的になったのは明治期になってからといわれ、古くは枕絵・艶本・笑い絵などと呼ばれた。武士の魔除けや女性の婚礼道具としても用いられ、江戸時代に浮世絵師によって多くの版画作品が製作された。享保の改革以降は非合法とされたが、かえって技術を競う豪華な作品が生み出された。絵師名は記されないが隠号を用い、葛飾北斎、喜多川歌麿などの著名な浮世絵師も多くの作品を残している

## 6 次期倉敷代官と下役人の人事を予測

御勘定御取ヶ方	新規御代官 田中庄次郎殿
斎藤方	元々 田中第五郎 杉浦武助 内山鷺三郎
白石方手明	藤井雄左衛門 外拾人ばかり名前略す

彼等が御地へ行くかどうかは分かりませんが、田中(庄次郎)はきっと参るでしょう。田中宗吾の姉娘の婿で当世の才子。いたって面白い人です。(中略)内山は節操があり誠実な人で、いたって評判がよろしい。藤井は江戸詰めです。小生とはよく知った仲です。もしも(倉敷代官が)田中に決まったら「御為に宜様(あなたに有利になるように)」小生が面会し、話し合いをするつもりです

安政4年10月24日〔大橋平右衛門あて内田清次郎書状〕別6-10-6-14

## 7 倉敷代官田中庄次郎評

田中は至ってよろしき人物。御勘定御取方から直に代官になったので地方(じかた。農村のこと)のことについては切れ者です。(田中は)手代を長く務めました

(安政4年)〔大橋平右衛門あて内田清次郎書状〕別6-10-6-10

## 8 倉敷へ赴任する佐々井半十郎代官に面談して情報提供

内々に佐々井代官の御内宅で面談し、色々と(倉敷村の様子などについて)お話しして内意を得ましたので追々申し上げます。その時私から代官に申し上げた事の手控を一冊お送りしますが、御一覧の上は焼却下さい。決して決して他見無用です。外ならぬ尊君のため申し上げます。くれぐれも秘密になさってください。

(嘉永3年)〔大橋平右衛門あて内田清次郎書状〕別4-29-17-5

## 9 倉敷へ赴任する手代に倉敷代官所と大橋家の情報を提供

(このたび)御地詰めになる松井孝三郎が(倉敷に)参るので一書差し出します。松井は※巖山と竹馬の友で、私も出府以来親しくしています。尊兄の事は松井に話しておいたので、何事もお話なさるのがよろしいと思います。御地の状況は竹山や宇佐美郷一からも細密に申し入れた様子です

(天保14年)11月12日〔大橋平右衛門あて内田清次郎書状〕別3-3-34

※巖山…内田の書状に何度か登場する人物。代官か手附の雅号と思われる

## 10 江戸出訴になった銭屋岡熊之介と水沢頼母の密通事件についての情報を提供

※岡熊一条はどうなったか心配しております。もはや片付いたでしょうか。何にしても困ったことございます。この事件のことは新任代官(田中庄次郎)がよく呑み込めておられず、何かと(評定所)留役の意見をうかがっているので事がはかどらないとの風評です。御代官は大事な官ですから人物は選びたいものです。(安政5年)8月15日〔大橋平右衛門あて野中修平書状〕別6-16-11

※古禄の銭屋岡熊之助と豪商水澤家の未亡人・頼母が密通していると水澤家の分家改介が訴えた事件が大きな騒動に発展し江戸出訴になった事件。解決までに17年もの歳月を要した。熊之介の日記から水沢家側が手代や代官に面会し、事が有利に運ぶよう画策していることが分かる

## 11 江戸出訴になった農業公害の争論についての情報を提供

①御地の※砂鉄一件も先日の御吟味では訴訟人方の言い分が通らず一同心配されているとのことで大変気の毒に存じます。(中略)何分にも大いに骨を折らなければ地改(実地検分)にもならず対談も申付けられないというような丸潰れになるかと存じます

(弘化3年)5月22日〔大橋平右衛門あて内田清次郎書状〕別2-7-13

※高梁川上流の鉄穴流しの影響で土砂が堆積して水はけが悪くなるため、下流の村々が上流の村々に対して訴えを起こした争論。弘化2年7月江戸訴訟に発展。訴訟方の惣代が浜村庄屋であったことから「備中浜村一件」と呼ばれる。勘定奉行の調停により弘化3年6月に和解が成立したが鉄の生産が重視されたため、鉄穴稼ぎの期間厳守と鉄穴場増設禁止を確約させるにとどまった

## 12 上納金に対する恩賞(格式免許)について助言

上納金のことについてですが、今は国が大変な時ですから、なるべく多く出されるのが良いと思います。御地ではどの位用意できるのかお聞かせ下さい。尊家が「三代」とお願いするようになりたければ、扶持とか何とか、お目当てをつけてお申しつけ下さるようお願いします。(私は)今の吟味役・松井助左衛門殿(勘定吟味役)の所へ立ち入っているので、同人へ直接詳しく申し上げたいと思います。御承知の通り、彼は手附から出世された人物なので、とくと納得なされれば大丈夫だと思います。(中略)くれぐれも松井殿へ深切にいたしますので、御懸念なく、お考えをお知らせください  
嘉永7年正月8日〔大橋平右衛門あて内田清次郎書状〕別5-14-10

### 13 江戸の世情を伝える

大樹公(徳川家茂)ご逝去。八月十八日に東叡山(寛永寺)へご葬送のお備えに代官手附・手代ら  
が選ばれましたが、当方(甲州市川代官・佐々井半十郎)よりは白谷完平(佐々井の手代)が出張  
いたします。(中略)水府御隠居(水戸藩主徳川斉昭)蟄居、例の御気質なのでとかく癩癩強く、お  
付きの者も困っている様子です。田安殿(徳川慶頼)が將軍後見職になったと触れがありました。こ  
れは(前將軍・家茂)の御遺言とのことです。(中略)このほど江戸で時疫病(コレラ)が流行し、病死  
人が夥しく、少し外出すれば20から30位の出棺に出会います。大きな寺院では一日に約70か  
ら80、小さな寺院でも3~4位の葬式があるそうです。これは時候がよくないからでしょうか。婦女の  
風評には水道に毒を流した者があるなど、物騒がしいこのご時節から出た風聞でございましょう。  
(中略)大老・井伊(直弼)殿は評判が良いです。「国固めの人物」と呼ばれています。(中略)この  
屋敷に落首がありました

紀州より来るにて一つ橋ありてたやす(田安)く西へ戻られもせん  
みと(水戸)もない尾張大根に味噌つけて越前飯も食へぬ世の中

(安政5年)8月15日[大橋平右衛門あて野中修平書状]別 6-16-11